伝承 折りひな

かやら草うつし

お茶の水 おりがみ会館館長
小林 一夫 監修

論創社

はじめに

「あかりをつけましょ　ボンボリに
お花をあげましょ　桃の花…」＊

3月3日のひな祭りは、女の子の無病息災を祈る親たちの願いを形にしたものです。『源氏物語』に光源氏が10歳の若紫を「紙びな」で遊ばせるシーンは「ひいな遊び」のルーツとも言われていますが、貴族の紙人形遊びが、公家の世界から次第に富裕層を中心として全国の城下町へ、あるいはお城勤めの女性たちの姉様人形や遊戯折紙となって広がって行きました。それが日本各地に伝わる郷土色豊かなひな人形として残っているのです。

＊サトウハチロー作詞「うれしいひなまつり」より

目　次

はじめに …… 2
ひな人形と和紙 …… 4
本書の成り立ち …… 5
折り方の記号 …… 9
基本の折り方 …… 13
Hina Dolls …… 14

男　雛 …… 15
　頭、体 …… 16
　着物 …… 21

女　雛 …… 25
　頭、体 …… 26
　着物 …… 29

三人官女 …… 33
　立っている官女 …… 34
　座っている官女 …… 45

五人囃子 …… 48
　謡い …… 49
　太鼓 …… 59
　笛 …… 61
　小鼓 …… 64
　大鼓 …… 65

たとう …… 66
　花たとう …… 67
　六角たとう …… 69

おりがみ会館の紹介 …… 73

ひな人形と和紙

１枚の和紙でさまざまな形を折り出す文化は、日本特有の芸術です。720年の『日本書紀』には、日本で紙が作られた最初の記録があります。大陸から伝えられた溜め漉きの技法から流し漉きという日本独自の製法を生み出し、薄い紙を作り出しました。そこから「折り畳む文化」の成長が始まりました。扇子や曹洞宗の僧侶が使う鉢単（僧侶の携帯用ランチョンマット）などは、現代までこの畳む文化が生きている一例です。

仁徳天皇が創建したといわれる「淡嶋神社」（和歌山市加太）では、ひな流しの神事が有名です。３月３日午前11時半、雛納祭の後、白木の舟に形代（紙びな）を積み、神職や巫女、信者や参拝者が担いで供え物と一緒に海に流します。

『源氏物語』の須磨の巻に、３月の初の巳の日上巳の日に陰陽師を呼んで河原で儀式を行った後、人形を舟に乗せて流し、桃酒を飲んだと記されていますが、身体に紙の人形を撫でつけて身の汚れを移す形代の風習が、年中行事になったのは室町後期でした。

その他にも、藤原道長の栄華を主として前後15代200年間を描いた『栄花物語』には、法成寺金堂供養について述べた段に「蓮華の造花を色とりどりの紙で折り、その上に小さな仏像を乗せた・・・」や、「藤原道長が一夜の内に桜、梅の造花を折って、宮廷の女官たちをあっとおどろかせて、華美なる祝宴を開いた」などの描写があり、紙を折り、花を愛で、楽しんだことがわかります。

江戸初期までは紙で作ったひな（立ちびな）を屏風の前に緋毛氈をひいて並べるだけでした。やがて商人たちの財力が豊かになり、材質も西陣といった布地の衣装びな「座りびな」へと移り、江戸後期には二段から、三段、五段へと段飾りも豪華になり華美を競うようになり、幕府より禁止令が出るほど派手になりました。

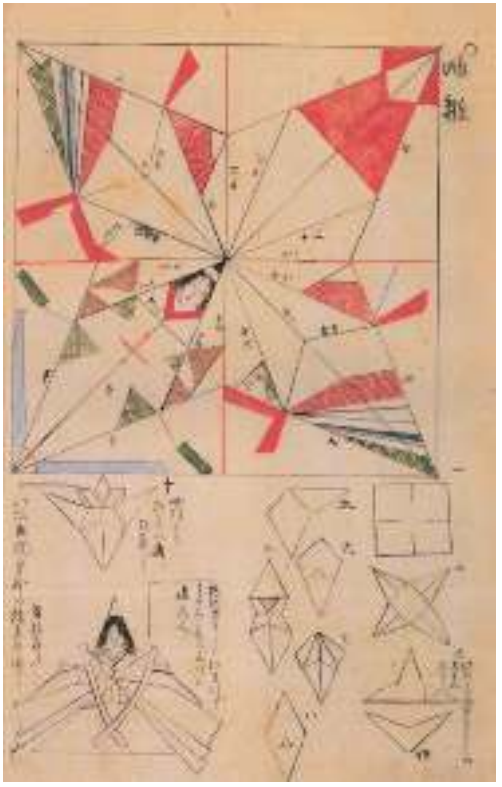
明治以降、鶴亀、宝船、風船等のさまざまな折り紙造形は、庶民でも楽しむことができる遊びにもなります。明治の教育改革の折に初代文部大臣、森有礼の命を受け、色のついた正方形の紙「教育折り紙」を製造したのが初代幸助の営む染紙屋、後のお茶の水おりがみ会館です。さらに現代では両手を使い指先を使う折り紙の動作は脳の活性化につながるであろうと、シニアの老化防止、病院でのリハビリにも折り紙は採用されています。

本書の成り立ち

1845年（弘化2年）に、足立一之が模写した「かやら草」（斯哉等草）が発行されました。これには、当時言い伝えられていた50～56種類ほどの折り紙が記録されていました。公家や武士の子女の遊びとしての折り方が紹介されていたのです。明治時代になるとその本のひなを折りやすくするため、色違いの和紙で重ね折りした「古典雛（びな）」が内山道郎（号・光弘・1878～1967）さんによって考案されました。同氏は1903年には「光弘式折り紙」「光弘式花紋折り」「光弘式重ね折り」「光弘式染色」などを出版、さまざまに折り方を工夫したのです。その後関東大震災前後には、今でいう軽印刷（単式印刷）を発明、印刷会社を設立しました。そして1933年には「折り紙教本」「折り紙基本図集」「新案　折り紙の考察」などを刊行しました。

こうして内山さんから始まった「古典雛」は、その折り方を学んだ佐久間八重女（1890～1994）さんに伝わりました。同女は1990年に「新版　古典折り紙」（平凡社刊）を出版、当館で99歳の祝いの展示をしたこともあります。その後、長女の佐久間駌（いつ）子さんが技を引き継ぎ、2017年夏に、今までの貴重な折り紙の作品を当館に寄贈されました。

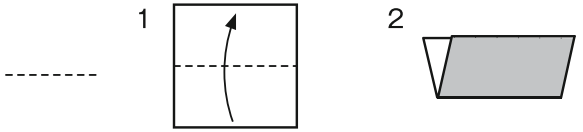
一方、1960年（昭和35年）に福音館書店から田中サタ著『折りびな』が発行されました。内山道郎（光弘）さんの「古典雛」は、田中サタさん（1906～2003）にも伝えられました。当時ベストセラー作家でもあった児童文学者の石井桃子（1907～2008）さんが監修したこともあり、同書はブームを呼びました。「敗戦後



かやら草　（朝日新聞社蔵）

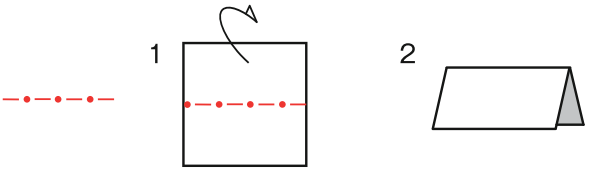
折り方の記号

谷折り線



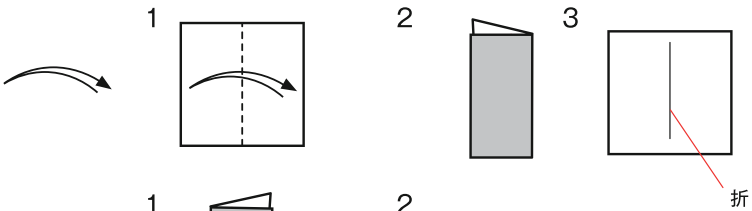
折ったあとの線が
内側になるように折ります。

山折り線



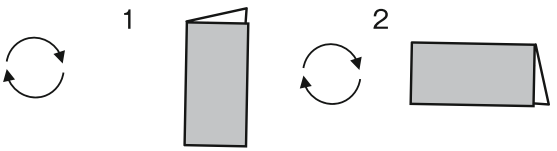
折ったあとの線が
外側に来るように折ります。

折り筋をつけます。

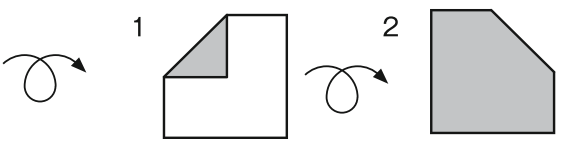


折ったあと
もどします。

向きを変えます。

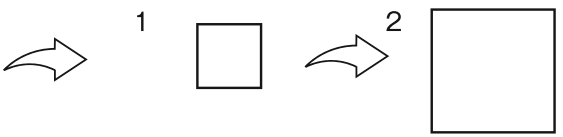


裏返します。

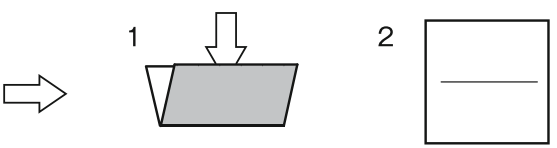


左右に裏返します。
天地は変えません。

図を拡大します。

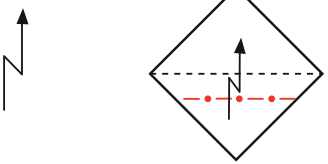


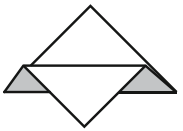
あいだを開きます。



折り方の記号

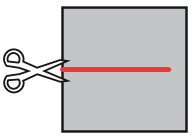
段折りします。

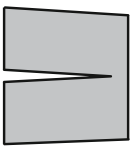




山折りと谷折りをして
段にします。

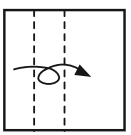
切ります。

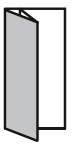




切り込みを入れたり、
切り落としたりします。

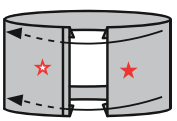
巻き折りします。

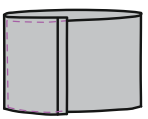




谷折りを繰り返して
巻くように折ります。

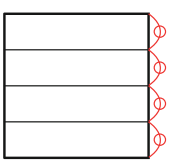
中に差し込みます。

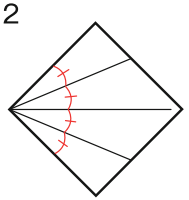




★を☆の中に
差し込みます。

等分にします。





角度や辺を
等分にします。

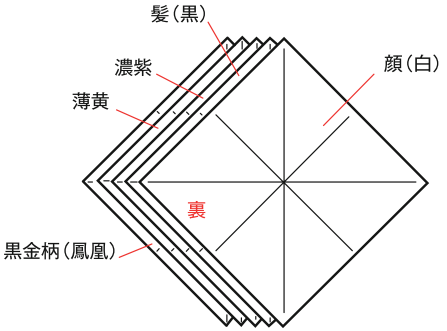
男　雛

The Emperor (OBINA)

男　雛

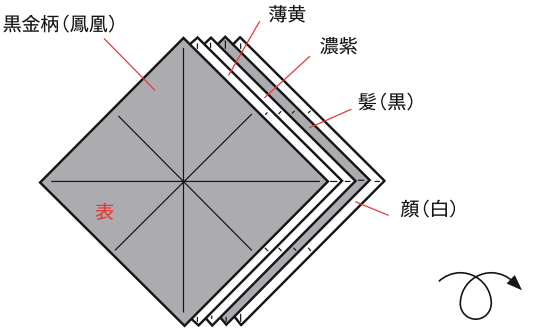
頭、体

黒金柄（鳳凰）、薄黄、濃紫、黒、白…各1枚



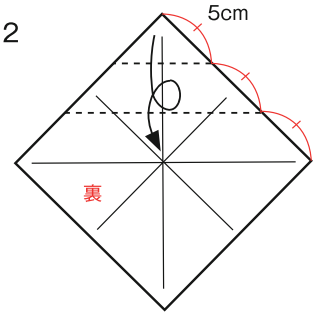
出来上がり

1



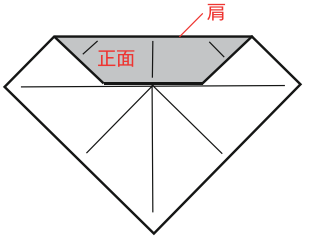
基本の折り方をしたところ
表側から見ています。

2



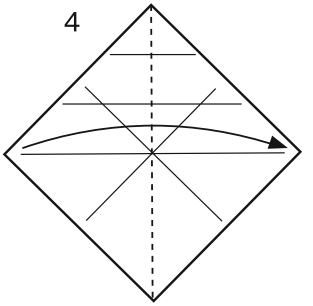
3等分にして巻き折りします。
折ったところが正面になります。

3



開きます。

4

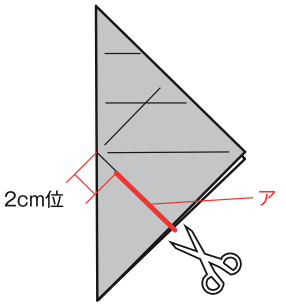


半分に折ります。

（わかりづらいので１枚のように書いてあります。）

黒・白

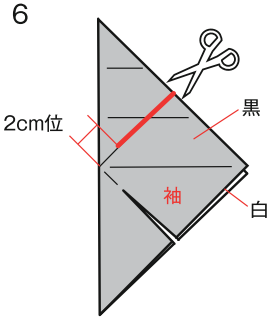
5



p.13の【基本の折り方】3図でつけた折り線アに赤線通りに切り込みを入れます。

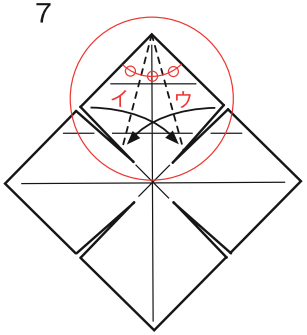
※ここで五枚のうち黒、白以外の3枚を外します。

6



黒、白の2枚を順に重ねたまま赤線通りに切り込みを入れて開きます。

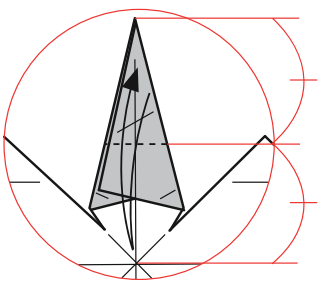
7



2枚一緒にイ、ウの順に折ります。

白

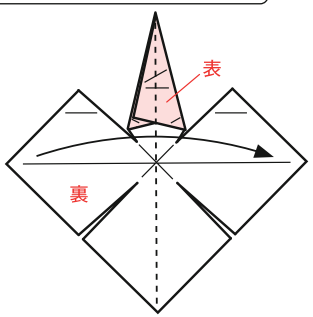
8



半分に折って折り筋をつけます。

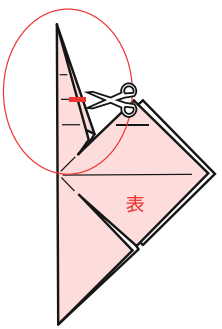
※黒と白に分けます。

9



白のみ半分に折ります。

10



8図でつけた折り筋でまとめて赤線通り（半分くらい）まで切り込みます。

おりがみ会館の紹介

1858年（安政5年）創業。
明治に入り、文部省学用品課からの要請で、世界で初めての折り紙の製造販売を開始。
1948年「合名会社　小林染紙店」設立。
1972年、伝統工芸としての折り紙を広く伝えていくための施設、『お茶の水 おりがみ会館』を開設。
折り紙・千代紙の製造販売、各種講習を開催し、百貨店などでの実演や展示といった会館外でのイベントも積極的に行っている。1986年文京区の文化遺産に指定される。

〒113-0034　東京都文京区湯島1-7-14
営業時間：9:30～18:00（ギャラリー：10:00～17:30）
定休日: 日曜・祝日・夏期休暇・年末年始
TEL：03-3811-4025（代）　FAX：03-3815-3348／03-3815-6817（商品部）
ホームページ　https://www.origamikaikan.co.jp

セット商品の紹介

色紙たとう入り「女雛男雛」

6,700円（税別）

折りやすい15センチ角和紙
（本書とじ込みの折り紙と同じもの）

48枚入（段飾り紙つき）／800円（税別）

檀紙白／赤柾 各2枚入り
（女雛男雛用、サイズ：柾版）

2組4枚／600円（税別）

10人揃え雛入り小箱
（箱のサイズ：約w14.5×d20.5×h4cm）

千代箱入り／25，000円（税別）

千代箱のみ1,200円（税別）

監修者について

小林一夫（Kobayashi Kazuo）

1941年、東京都文京区湯島に生まれる。東京・御茶ノ水にある「おりがみ会館」館長。安政5年（1858年）創業の和紙の老舗「ゆしまの小林」4代目、会長。内閣府認証 NPO法人国際おりがみ協会理事長、文部省・高等学校教員資格を有す。折り紙の展示や、教室の開催、講演などを通じ、和紙、文化の普及と継承に力を注ぐ。 その活動は日本のみならず世界各国に及び、日本文化の紹介、国際交流にもつとめている。

近著に『折り紙は泣いている』（愛育社）、『千代紙』（KADOKAWA）、『おりがみBOOK』（二見書房）、『福を呼ぶおりがみ』（朝日新聞出版）の他『飾って華やか季節のブロック折り紙』（PHP研究所）、『英訳付き折り紙帖』（池田書店）の監修など海外版も含め出版は200冊以上にのぼる。テレビ出演、講演活動多数。

折図作成　湯浅 信江（ゆあさ のぶえ）
作品制作　渡部 浩美（わたべ ひろみ）
ブックデザイン　山下三千夫（やました みちお）

伝承（でんしょう） 折（お）りひな　かやら草（くさ）うつし

2018 年　3 月 10 日　初版第一刷印刷
2018 年　3 月 20 日　初版第一刷発行

監修者　小林一夫
発行者　森下紀夫
発行所　論創社

東京都千代田区神田神保町 2-23　北井ビル
tel. 03-3264-5254　fax. 03-3264-5232
振替口座 00160-1-155266

印刷・製本　中央精版印刷
ISBN978-4-8460-1699-9
©2018　Printed in Japan
落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

本書には、歌詞（歌い出し）からの引用がなされていますが、本書は著作権法第32条（引用）に該当する著作物で、引用は「公正な慣行」に合致し、「目的上正当な範囲内」で行なわれています。